

国語の学習について

診断メモと、これから2週間の取り組み

ご相談後にお渡しする資料の一部を、架空のご家庭を例にご紹介します。本文・答案・面談のやりとりも、この見本のために作成したものです。資料の全体ではなく、実際の内容や分量はご相談によって変わります。

小学5年生で、塾に通っているお子さんの例です。「解説を聞けば分かるのに、次のテストではまた迷ってしまう」というご相談を想定しています。

まず取り組んでほしいこと

今回は、選択肢を決める前に、最後まで本文と比べる練習を勧めたいと思います。根拠になりそうな文は見つけられています。ただ、本文と同じ言葉があると、そこで「これだ」と決めてしまう様子がありました。

下の問題では、ウを選んで「違う一冊に出会う、と書いてあるから」と説明してくれました。関係する箇所には戻れています。次のページに、本人と確かめたところを書きました。

面談で一緒に考えた問題

図書館で目当ての本が貸出中だと、がっかりする。けれど、棚を眺めるうちに、探していた本とは違う一冊に出会うことがある。目当ての本を借りることを目的にしていたら、その本には手を伸ばさなかっただろう。予定どおりにいかない時間にも、思いがけない発見がある。

問 筆者の考えとして、最も適切なものを選びなさい。

ア 目当ての本がなければ、図書館では何も得られない。

イ 予定どおりにいかないときにも、新しい発見をすることがある。

ウ 目当ての本が借りられないときは、必ずそれよりよい本に出会う。

エ 図書館では、予定を立てずに本を借りるべきだ。

この見本では、読み方の違いが伝わるように短い自作問題を使っています。この一問で国語全体の力を測るものではありません。

選択肢で迷ったところ

本文にある言葉を見つけた、その後に

ウの「目当ての本が借りられない」は、本文と合っています。「本に出会う」も書いてあります。お子さんは、その二つをつないで答えにしたようでした。

見落としていたのは、間にある「必ず」と「それよりよい」です。ここを本人と確かめました。

「出会うことがある」と「必ず出会う」は、同じかな。

「毎回とは書いていない」と返ってきました。続けて「違う本と、よりよい本は同じ？」と聞くと、「よい本かどうかは分からない」と説明できました。

言葉の違いを指摘されれば、意味は分かっています。ですから、今すぐ読解の問題をたくさん増やすよりも、**自分でその違いに気づく練習を先にしたい**と考えています。面談で答え直せたことと、次に一人で解けることは、分けて見ておきましょう。

「よく読んで」の代わりに

ご家庭では、答え合わせの前に「選択肢の、どこまでが本文と合っている？」と聞いてみてください。間違っている言葉を先に教えず、お子さんが説明するのを少し待ちます。

この問題なら、ウを「目当ての本が借りられない／必ず／それよりよい本に出会う」と区切って比べます。初めの部分が合っていても、残りまで合っているとは限りません。

なお、「必ずと書いてあったら消す」とは覚えなくてください。本文に毎回起こると書かれていれば、正しい場合もあります。消せる言葉を探すのではなく、この文章ではどこまで言っているかを確かめます。

正答のイは、本文の最後の一文と合っています。アの「何も得られない」は、本との出会いがあったことと食い違います。エの「予定を立てずに借りるべきだ」という勧めは、本文にはありません。

解き直しの記録も、少し変えてみましょう

正解に直した丸だけでなく、気づいたところを一言残してください。たとえば、こんな書き方です。

「よりよい」は自分でおかしいと気づいた。「必ず」は「ほかの部分も合っている？」と聞かれてから気づいた。

これなら、まだ助けが必要なところが、後で見ても分かります。ご家庭で毎回長いコメントを書く必要はありません。本人が書いた説明に「声かけあり」と添えるだけでも、次に何を練習するかの手がかりになります。

記述の答案について

思いついた内容を、答えにするまで

同じ本文で、次の問いにも取り組んでもらった例です。

問 筆者が「予定どおりにいかない時間にも、思いがけない発見がある」と考えるのはなぜですか。図書館での例を使って説明しなさい。

お子さんの答案：違う本に出会えるから。

書いてあること自体は、本文から外れていません。ただ、これだけだと「予定どおりにいかなかったこと」と「発見」が、どう関係するのかが伝わりません。

ここで「もっと詳しく書いて」と言っても、何を増やせばよいか迷ってしまいます。まず、「目当ての本が借りられなかったので、そのあと何をした？」と尋ねました。

「棚を見て、違う本を見つけた」と説明できたので、今度は「予定どおりに目当ての本を借りていたら、その本を手にとっていたかな」と、本文の三文目に戻りました。

この問題で書き足したいのは、単に「棚を見た」という動作だけではありません。**予定どおりだったら手に取らなかった本に出会えた**という関係です。そこが伝わるようにすると、たとえば次のように書けます。

書き直しの例：目当ての本が借りられず棚を眺めることで、予定どおりなら手に取らなかった別の本に出会うことがあるから。

これは、説明をつないだ答案の一例です。字数指定は設けていません。実際の問題では、字数や聞かれ方に合わせて、必要な内容を選びます。

家で書き直すときは

最初の答案を消さず、その横に書き直すようにしてください。二つを比べながら、「何の説明を足した？」と聞いてみます。「長くした」ではなく、「予定どおりなら出会わなかった、というところ」と言えれば、直した理由を確かめられます。

模範解答を読んだ直後は、その言い回しを覚えて書けることもあります。一度解説を閉じて書き、数日たったらもう一度やってみましょう。その後は別の問題でも、書く前に「何を説明するんだっけ」と確かめてから取りかかります。

今回は、選択肢では本文にない意味を読み込み、記述では必要な説明を落としていました。どちらも、答えと本文を比べるところに戻って練習していきます。

これから2週間の進め方

今使っている塾の教材で取り組みます

新しい問題集を買い足す必要はありません。本文と解説がそろった説明文を選び、今の国語の復習時間の中で進めてください。最後の確認用に、まだ読んでいない短い説明文と選択問題一問を、先に取り分けておきましょう。

日にち	やってみること
1～3日目	一日一問、選択肢を意味で区切って本文と比べます。正しい選択肢には本文の根拠を、ほかの選択肢には合わない部分を示します。最後にご家庭で説明を聞いてください。
4～6日目	4・5日目は別の文章の選択問題を一問ずつ。6日目は、以前解いた記述一問を書き直します。書く前に、何の説明が必要かを口に出して確かめます。
7日目	新しい問題は解かず、ここまでの記録を見返します。同じところで迷っていないか、声をかけなくても気づけたところはあるかを見ます。
8～10日目	8・9日目は別の文章の選択問題を一問ずつ。10日目は別の記述一問に取り組みます。答える前に、本人から確認を始められるかを見てください。
11～13日目	間違えた問題や迷った問題を、一日一問解き直します。解説と前の答えは隠します。問題が足りなければ、正解した問題を使って構いません。
14日目	取り分けた初めての問題を解きます。ヒントを出す前に、すべての選択肢について、合う根拠か、合わないところを一言ずつ書いてもらいます。

一日15分ほど、7日目は10分、14日目は20分を目安にしてください。本文を読む時間も含めています。終わらない日は続きから翌日に回し、その後の問題数を減らしましょう。

ご家庭で見えていただきたいこと

つきっきりで説明していただく必要はありません。最後の3分ほど、選んだ理由を聞いてみてください。うまく説明できないときは、答えを教える前に「本文のどこを見た？」と、本文に戻るきっかけを作ります。

二週間後に見たいのは、正解したかに加えて、**どこまで一人で確かめられたか**です。できていれば、別の文章でも試してみましょう。一問正解しただけで、もう大丈夫と急いで判断しなくて構いません。

まだ声かけが必要なら、迷ったところをもう一度扱います。本文の一文そのものが分からない場合は、選択肢を比べる前に、その文や言葉の意味を一緒に確かめるところから始めます。

うまく進まない日は、「どの言葉で止まったか」だけメモして、その日は終えて構いません。